

## 和歌山県人会世界大会が開催!!

本年10月に、第2回和歌山県人会世界大会が開催されます。和歌山県は、戦前・戦後の海外移住者数が全国6位の移民県だそうです。多くの県民がアメリカ、カナダ、オーストラリア、ブラジルなどへ夢を抱いて海を渡った歴史があります。

2019年に、海外・国内の和歌山県人会員がふるさと和歌山で一堂に会し、和歌山にルーツを持つ方々が、県民との交流や移民に対する理解を深めることを目的として、「第1回和歌山県人会世界大会」が開催されたそうです。

第1回大会が大盛況で終わったそうですが、本年第2回目の大会が開催されることになり、その内の一部の方が、「稲むらの火の館」の見学に来られることになりました。

現在来館を予定されている、海外県人会は

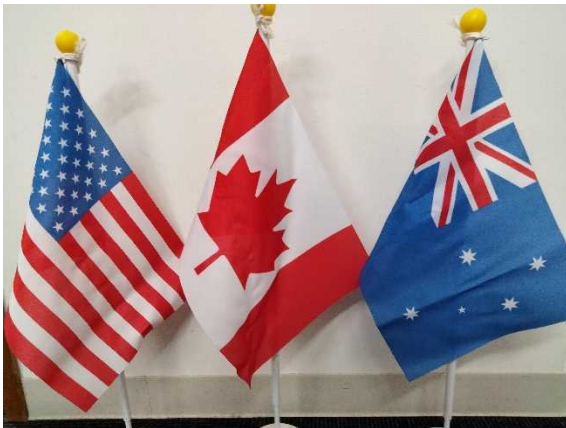
木曜島(オーストラリア)

東部カナダ

南加・シアトル(アメリカ合衆国)

その他

の176名の方々に、準備を進めています。



期日 令和5年10月7日

9時30分から11時まで

**ご親戚や知人等縁者はおられませんか。**

「稲むらの火の館」見学に来られた時に、こちらでお会いしたいという希望者がおられたら、御連絡ください。館内で御面会する場所を確保したいと思っておりますので、お申し出ください。

## ベトナム高校生ご来館

「日越外交関係樹立50周年」にあたり、ベトナム・クアンナム省の高校生招へい事業がありました。和歌山県の高校生や県民との交流等を行うことで参加者の防災意識の高揚を図り、対日理解を深めることを目的としています。

7月28日(金)、このベトナムからの参加高校生21名、団長、引率者3名、合計25名の皆様が「稲むらの火の館」へ来館されました。当館ではいつもながら、海外からの御来館の際には、駐車場にある防犯灯のポールに国旗を掲揚して歓迎の意を表しています。



館内では、館長のガイダンスをベトナム語に通訳していただき、聞いていただきました。最後には生徒からの質問も受けました。「稲むらの火は、どのように使ったのですか。」「梧陵さんが造った堤防では、津波も地震も防ぎますか。」というような質問もありました。館内の展示も案内しましたが、熱心に見学されたので、最後の「広村堤防」の見学では、時間が足りなくなってしまって、質問時間を取れず、申し訳なかったです。

この高校生たちは、ベトナムからチャーター便で白浜空港へ来ましたが、その飛行機の帰りの便に、和歌山県の高校生が乗って行って、ベトナムを訪問し、相互交流をしました。

# 百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

## 第30回 平本歩さんが遺してくれたもの

関東大震災から百年。このコラムでも、あの震災のことを扱おうかと思ったのだが、しかしふと、大火災の延焼、デマと朝鮮人虐殺、帝都復興などの“大きな物語”ばかりを語ることの陥穽こそ、あの震災が残した“真の教訓”なのではないかと思いついた。そこで、ここでは、敢えて現代の“小さな物語”を書き記しておこうと思う。

兵庫県尼崎市に在住していた平本歩さんは、ミトコンドリア筋症の患者さんだった。からだの筋肉が動かなくなっていく進行性の難病である。わたしが出会ったときには、すでに、眉間と舌先以外の筋肉は、ほとんど動かさなくなっていた。

もちろん、寝たきりである。人工呼吸器を装着していなければ呼吸ができず、心臓も止まってしまう。だから、人一倍、防災のことを考えていた。大阪北部地震の経験もふまえて、8台の予備バッテリーを備えていた。ベランダの鉄柵を外して、ベッドごと避難する訓練も実施していた。

自宅で、非常用持ち出し品を見せてもらったときのことである。たくさんの医薬品が真っ赤なスーツケースに詰め込まれていた。そしてそこには、ヘルパーさんの分も含めて、三人分の防災グッズや非常食、飲料などもおさめられていた。

コミュニケーション用に50音のひらがなが書かれた電子ボードを使い、舌先の筋肉でカーソルを動かしてもらって、1音1音、彼女のメッセージを受け取る。「わたしだけが助かっても仕方ない」。「わたしが助かろうとすることで、ヘルパーさんも一緒に助かることができる」。

自分だけがサバイブすることを強調するのは、真正な「防災」とは言えない。他者を慮り、一緒に助かる道を共に探ることが、百年の計に通じる「防災」の理念なのだ。2021年、彼女は静かにこの世を去った。享年35歳。彼女のやさしさとたくましさを、しっかりと受け継いでいこう。

## 【館長日記】

神戸市の「阪神・淡路大震災記念人と防災未来センター(人防)」から連絡をいただきました。

「ぼうさいこくたい 2023KANAGAWA」が9月に横浜で開催されます。そこへ、「人防」が提唱して「全国の災害伝承ミュージアム」が共同で1つのブースを出展しましょう、ということでした。全国に、災害伝承ミュージアムは70件ほどあるそうです。各ミュージアムのパンフレットを並べて、来館者に持ち帰っていただく、という企画です。「稲むらの火の館」へもお誘いいただいた訳です。教育委員会と相談の上、参加させていただく旨、ご返事させていただきました。そう言えば、2019年に名古屋で開催された第4回の時にも、「人防」からお誘いいただいて、シンポジウムへ登壇させていただいた事も思い出しました。この時、時間の関係で「ぼうさいこくたい」全体を見学することは出来ませんでした。しかし、会場のビルの中の展示ブースは本当に、所狭しと、いろいろな団体が展示されていました。窓から見下ろすと、下の屋外の公園にもテント張りのブースがたくさん並んでいた記憶があります。去年は、神戸市で開催されたと思います。日頃お付き合いのある団体の方々も出展するという情報もお聞きしました。各種の防災活動の団体が日頃の活動の成果を発表する良い機会ですね。おそらく、全国で一番規模の大きい防災イベントだと思います。そこへ、「稲むらの火」のパンフレットを置いていただくだけでも、有難いことです。

もう一つ、「人防」から案内をいただきました。

「防災100年ものがたり(絵本の原案)募集」という案内です。作品は2000字以内ということでした。

「防災・減災」をテーマに作文を書いてみませんか。 <https://bosai100nen-ehon.org> をご覧ください。詳しい説明が載っています。「館」にはチラシもあります。

